



③雨水がたまった採石場跡地をボートで探索する参加者④昼食会場も採石場跡地。いずれも27日、宇都宮市大谷町

## ちよつと地底まで

都心から日帰りで行ける地下空間が注目を集めている。地域の魅力を発信する地底湖ツアーや、都会を水害から守る「巨大神殿」、都内の歴史的遺産……。一部は大型連休中も楽しめる。都市近郊に広がる神秘的空間を巡った。

(写真と文 矢木隆晴)

### ボートで探検

#### 宇都宮 大谷石の採石場跡

宇都宮市大谷町に残る大谷石の採石場跡地。地下に雨水などがたまり、地底湖のような空間が広がる。大型連休前半の27日、その水辺をボートで巡るツアーが開かれた。地元旅行社などで作る有限責任事業組合「チイキカチ計画」が地域の魅力を発信しようと企画した。

古代ローマ遺跡を思わせる採石場跡から、参加者14人とガイド2人が2隻のボートに乗船。約2千平方メートル、水深約10メートルの地底湖を40分間、「探検」した。昼食会場となった横穴は崖に開いた窓のようだ。同組合によると、崩落の危険性や水位の変化などを2年間にわたって調査、安全性を確認した。横浜から夫婦で参加

### 「神殿」へ 年3万人

#### 埼玉 増水対策の放水路

埼玉県春日部市の「首都圏外郭放水路」。地上から116段の階段を下りると、見学会に参加した25人からため息がもれた。気温10度。サッカー場ほどの大きさに高さ18メートル、重さ500トンの柱が整然と59本並ぶ。まるで古代の神殿のようだ。

埼玉と東京にまたがる中川・綾瀬川流域はお盆のような地形で以前から洪水や浸水被害に悩まされてきた。台風などで増水した河川の水を江戸川に流すために造られたのがこの放水路。神殿のような空間は調圧水槽と呼ばれる施設で、流れ込んだ水の勢いを弱める役割を果たす。昨年度は過去最高の12回稼働し、今年度も4月に1回活用された。

一般の見学者数もここ3年間は3万人を超える。現在、見学は平日のみで土日祝日は休み。この大型連休中の平日は予約で埋まっている。要望に応じて今年からは夏休み期間中、1日あたりの見学会を3回から4回に増やす。参加には予約が必要。電話とホームページで28日前から受け付けている。



神殿のように柱が並ぶ「調圧水槽」を見学する人々=25日、埼玉県春日部市



かつて下水が流れた地下トンネル。床には陶板が張られている=26日、東京都荒川区

### 大正のトンネル穴場

#### 荒川 下水処理場の遺構

国内初の近代下水処理場として活躍した「旧三河島污水処分場唧筒場施設」(東京都荒川区)は月平均109人が訪れる穴場スポットだ。

国の重要文化財に指定された建物群は赤レンガタイプで覆われ、当時ヨーロッパで流行した建築様式で建てられた。1922(大正11)年から99年まで77年間運用された歴史の遺構が昨年から一般公開されている。下水を流していた地下トンネルやポンプなどが見学できる。見学は火、金曜日以外で、土日可。電話で予約できる。

#### ■ツアー体験や見学の予約と問い合わせ先

- チイキカチ計画=連絡先・えにしトラベル (028・665・8800、<http://enishi-travel.jp/>)
- 首都圏外郭放水路 (048・747・0281、<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/gaikaku/index.html>)
- 旧三河島污水処分場唧筒場施設 (03・6458・3940)